

第2次和泉市都市計画マスタープラン

地域のまちづくり方針（案）

【南部地域】

1. 地域別構想について

(1) 地域別構想とは

和泉市全域を対象とした全体構想と整合を図りつつ、地域ごとの特性や課題を踏まえて、地域の資源を活かした特徴的なまちづくりを展開していくため、地域の将来像やまちづくりの目標、まちづくりの方針を示すものです。

地域特性やコミュニティ環境などから、北部地域、北西部地域、中部地域、南部地域の4地域に分けて、それぞれの構想を定めます。

地域の区分



(2) 地域別構想の位置づけ

広域的かつ全市的な視点から方針を示している全体構想に対して、地域別構想は地域ごとの特性や課題を踏まえて、いわば地域の視点から定めるものです。

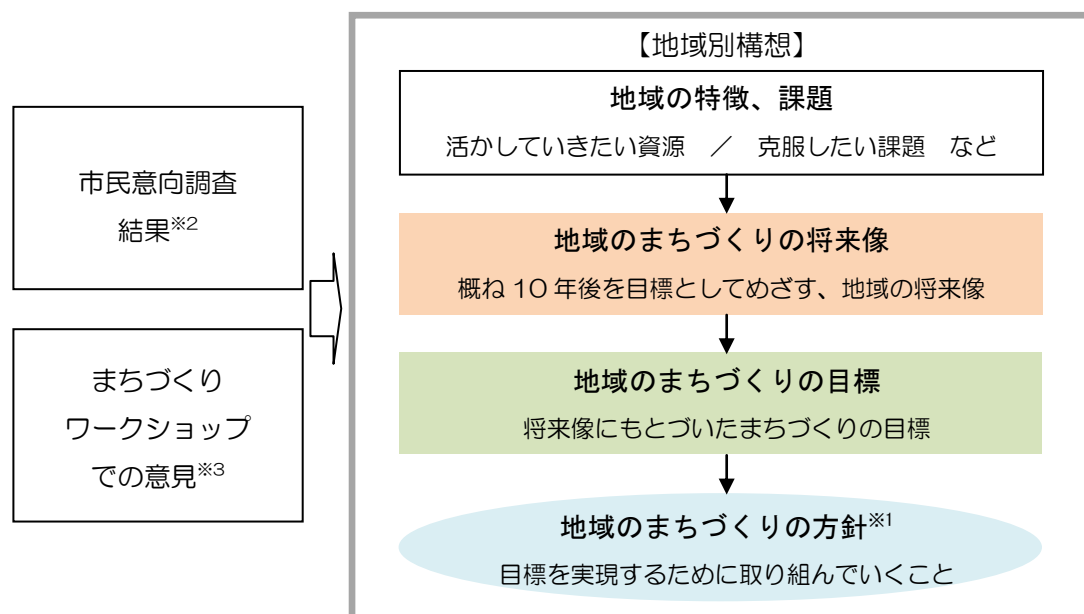
全体構想と整合のとれた、地域ごとに特色のある個性的な計画となります。

(3) 策定プロセスと構成

策定に当たっては、市民意向調査の結果や、まちづくりワークショップでの意見を参考にしつつ、地域の資源と課題を抽出し、地域の将来像を立て、目標とまちづくりの方針を検討しました。

まちづくりの方針は、市と地域が協働で取り組むもの、地域が主体となって取り組むもの、市が主体となって取り組むものを記載しており、公民協働でまちづくりを進めていくこととしています。

策定のプロセスと地域別構想の構成



※1 まちづくりの方針の表現

地域が主体となって取り組むことや、行政と地域が連携しながら協働で取り組むことは「……しましょう」という表現を用いており、行政が主体となって取り組む事業での「……します」とは使い分けています。

※2 和泉市都市計画マスタープラン市民意向調査

平成26年1月30日～2月28日を調査期間として、和泉市に在住の18歳以上の男女3,000人（住民基本台帳より無作為に抽出）を対象に実施しました（回収率は29.0%）。

※3 まちづくりワークショップ

地域ごとに住民が集まり、地域の現状やまちづくりの目標などについて意見交換しました。各地域計3回ずつ（平成26年9月、平成26年10月、平成27年2～3月）

2. 地域別構想

南部地域

①地域の概況

市の南部に位置する本地域は、地域の大部分が和泉山脈に属しており、谷筋に集落や田畑が分布する地域です。地域の南部には、豊かな自然環境が残されており、金剛生駒紀泉国定公園に指定されています。

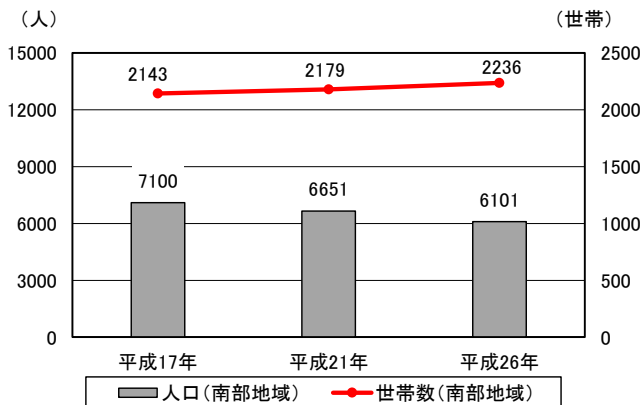
他市とつながる幹線道路として、大阪外環状線（国道170号）が通っています。



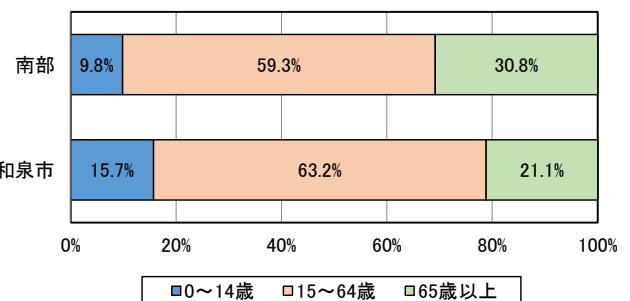
平成26年3月末時点の南部地域の人口は6,101人、世帯数は2,236世帯です。平成17年から平成26年にかけて、人口は減少、世帯数は増加傾向にあります。

平成26年3月末時点の南部地域の年齢別の人口構成は、0歳から14歳が9.8%、15歳から64歳が59.3%、65歳以上が30.8%となっており、市の平均的な人口構成と比較すると、高齢者の割合が大きい傾向にあります。

人口・世帯数の変化



年齢別の人口構成



出典：住民基本台帳データ（各年3月末時点）
※外国人を含まない

②地域の特徴・資源

和泉山脈の山林に囲まれており、その豊かな自然環境を活かし、自然学習やレクリエーション体験が可能な和泉市青少年の家や榎尾山グリーンランド、いずみふれあい農の里が立地しています。榎尾山施福寺は、西国三十三所の札所として、毎年多くの人たちが参拝に訪れます。

また、本地域には、和泉市南部リージョンセンターが立地しており、地域の拠点として利用されているほか、道の駅いずみ山愛の里が併設されており、市外からも人が訪れる場所となっています。

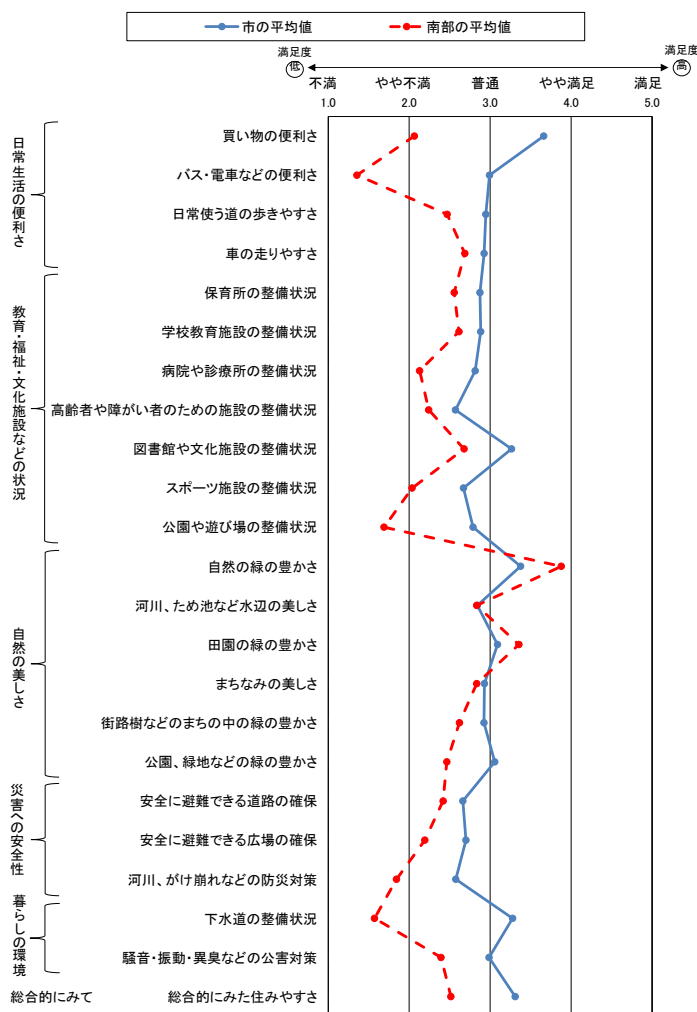
地域の主な資源 (和泉市都市計画マスタープラン市民意向調査、和泉市観光ガイド、市資料より)

地域で大切にされてきた 歴史文化遺産や寺社	槇尾山施福寺、鳳林寺、阿弥陀寺、満願の滝
公園、緑、水などの豊かな 自然環境	槇尾山グリーンランド、槇尾川、松尾川、槇尾山、南部地域の山々や自然環境、横山地区の自然、ホテルが生息するまち
歴史的なまちなみや新しい まちなみ、建物	道の駅いずみ山愛の里、和泉市青少年の家、いずみふれあい農の里
お祭り・行事	笹踊り

③暮らしの満足度 (市民意向調査より)

南部地域の暮らしの満足度に関しては、自然や田園の緑の豊かさについては市の平均値よりも高い値となっています。しかし、それ以外の項目については低い値となっており、特に、バス・電車などの便利さ、公園や遊び場の整備状況、河川・がけ崩れなどの防災対策、下水道の整備状況において満足度が低くなっています。

暮らしの満足度



(和泉市都市計画マスタープラン市民意向調査より)

④地域の課題

1) 生活基盤・住環境の課題

一部の集落では、道路幅が狭く交通安全上の問題があるほか、下水道の未整備地区もあり、快適な生活環境づくりが必要です。また、地域内は概して公共交通（バス）の利便性が低く、少子高齢化と人口減少が進行する中であって、移動に制約の大きい住民（いわゆる交通弱者）への対応が必要となっています。

山地が地域の大半を占めることから、住民の土砂災害等の自然災害への危機意識は高く、減災の考え方に基づく災害対策と自然環境の保全が必要です。

2) 地域活性化の課題

市街化調整区域として開発が規制されている一方で、地域人口の減少は著しく、集落機能を維持するための定住人口の確保が課題となっています。

また、交流人口の確保については、自然や歴史・文化など地域の優れた資源を活用した都市農村交流を進めることが求められます。

現状の国道170号沿道の土地利用及び景観の混乱は、沿道特性を活かした土地利用を難しくしているほか、本市の対外的なイメージの悪化にもつながるものであり、早急な対応が必要です。

3) 地域の拠点の課題

南部リージョンセンターには道の駅が併設され、地域交流と観光の拠点となっており、この施設を拠点とした地域活性化に向けた取組みを継続して行っていく必要があります。

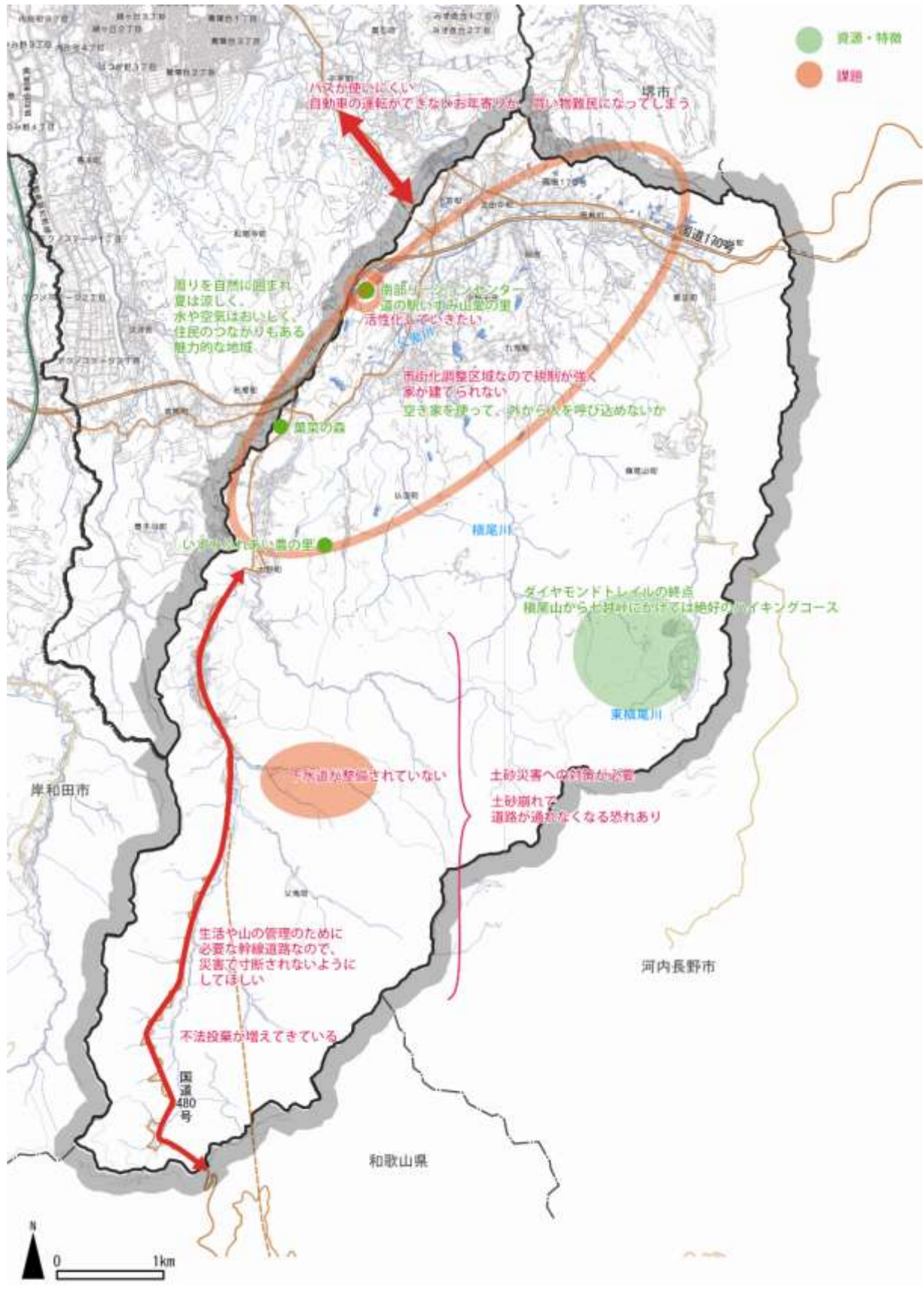
一方、大阪府内では、津波等災害への不安から臨海部から内陸部への企業移転の動向があり、国道170号は4車線化によりポテンシャルが高まりつつあります。こうした、本市を取り巻く広域の動向も考慮に入れながら、地域活性化のあり方を検討する必要があります。

4) 土地利用の課題

山地と田園が地域の大半を占めており、自然環境の保全と田園環境の維持保全を基本に、その中にある一部の集落の生活環境の改善を図る必要があります。

都市計画上は、全域が市街化調整区域であることから、農林業の振興とともに、農林地の無秩序な転用や土地利用を規制し、地域環境の悪化を防止する必要があります。一方で、集落機能の維持や地域活性化の要望に対して、計画的で秩序ある土地利用を図ることが求められます。

参考 ワークショップで出された、地域の主な資源と課題についての意見



⑤地域の将来像とまちづくりの目標

地域の将来像

自然と共生しながら、都市農村交流により、地に足の着いた活性化を目指すまち

まちづくりの目標

- 1) 暮らしやすい地域づくり
- 2) 活力を呼び込む地域づくり
- 3) 地域活性化のための拠点づくり

⑥まちづくりの方針

1) 暮らしやすい地域づくり

ア 集落環境の整備を進めます

- ・ 下水道の整備、道路・橋梁等生活基盤施設の適切な維持管理、更新を図り、快適な生活環境づくりを進めます。
- ・ 少子高齢化に伴い移動に制約の大きい住民（いわゆる交通弱者）への対応として、公共的交通手段の確保を図ります。
- ・ 通学路等については、交通安全施設整備等の手法により、歩行者の通行の安全性を高める対策に取り組みます。

イ 災害への備えを進めます

- ・ 地域の大半が山林であることから、減災の考え方に基づいて、農林業振興による山林の保全・育成を図るほか、治山・治水対策事業の促進や、土砂災害警戒区域等の指定などの防災対策を進めます。
- ・ 土砂災害による孤立化が懸念される地区について、大阪府など関係機関との調整のもと、孤立化対策について検討します。

ウ 自然環境の保全・活用を進めます

- ・ 金剛生駒紀泉国定公園をはじめとする豊かな自然環境について、適切な維持管理や法的規制などにより保全を図ります。
- ・ 木材や炭（横山炭など）などの利用促進や、小水力発電をはじめとする再生可能エネルギー源としての利用など、環境保全と調和した利用について検討します。

2) 活力を呼び込む地域づくり

エ 人口減少対策のための取組みを進めます

- ・市街化調整区域として市街化を抑制する方向性を基本としつつ、人口減少下における集落機能の維持のため、U・Iターンや田舎暮らし希望者等の誘致施策や空き家活用施策に取り組みます。また、定住を促す開発等の規制・誘導のあり方について検討します。
- ・新しく地域に住み始めた住民も地域コミュニティに参加し担い手となるように、住民相互の理解を広め、誇りと愛着を育むまちづくり活動をしていきましょう。

オ 都市農村交流による活性化を進めます

- ・地域住民との連携によって、地域の優れた自然環境や農産物等を活かした観光、交流、体験などの都市農村交流の活動を進めます。
- ・ダイヤモンドトレールや榎尾山グリーンランド、施福寺、鳳林寺、いずみふれあい農の里など、地域資源の価値を住民自らが再発見し、磨きをかけて、付加価値を付けてアピールすることで、地域の個性として売り出すよう取り組みましょう。
- ・地域住民を主体としつつも、企業や大学、NPO、ボランティアなど、多様な主体との連携によって都市農村交流を促進します。

カ 国道170号沿道の景観形成を進めます

- ・国道170号は、複数の都市をつなぐ主要幹線道路であり、市外からの来訪者に対して良好なイメージを形成するため、沿道景観の形成に取り組みます。道路の拡幅整備に併せて、資材置き場や廃車置き場、事業場等の堆積物の高さを抑えたり緑化するなど、景観配慮の取組みを促進します。また景観の混乱を防ぐため、地域の合意形成を図りながら土地利用の規制誘導について検討します。

キ 農業の活性化に向けて取り組んでいきます

- ・農業は地域の主要な産業であるとともに、土地利用や景観、緑豊かな環境を形づくる上でも重要な要素です。農地の保全や営農基盤の維持・充実などを進めるとともに、農家を中心に地域内外の多様な人材と連携して、特産品や販売ルートの開発、IT活用やデザイン向上など、農業の付加価値を高める方向で活性化に取り組んでいきましょう。
- ・後継者や営農組織等の育成、新規就農者の受け入れとともに、体験農園や市民農園の設置・運営、農業サポーターやボランティア、大学、企業などとの連携など、多様な担い手が地域農業に関わり支えるような仕組みづくりについて検討していきましょう。

3) 地域活性化のための拠点づくり

ク 南部リージョンセンターを活性化拠点として充実します

- ・南部リージョンセンターは道の駅を併設しており、既に観光・交流の拠点となっ
ています。地域で生産される農産物等を活かすため、直売所や加工施設としての機能を充実
します。また、施設の持つ地域交流、地域活性化の拠点機能をより発揮できるような取組
みを、手法の検討も含め継続して行っていきます。

ケ 国道170号沿道での産業活力を増進する土地利用について検討します

- ・大阪府や隣接市などの関係機関等と調整しながら、国道170号沿道の広域交通利便性を
活かし、市内はもとより大阪府内の産業活力の維持・増進に寄与する土地利用について
検討します。
- ・沿道土地利用の経緯と現状を踏まえ、地域づくりとしての合意形成を図りながら、土地
利用調整の計画や開発の規制・誘導の制度について検討します。

⑦ 土地利用の方針

○ 田園里山地区

- ・田園や里山を中心とする地区では、市街化は基本的に抑制しつつも定住を促す開発等の
規制・誘導のあり方について検討し、人口が維持される持続可能な集落を目指します。
- ・里山については、関係機関と連携しながら農林業振興を図るとともに、気軽に自然と触
れあえるレクリエーションの場、自然観察・体験の場、生物生息空間など多面的な活用
を図ります。
- ・集落では、幅の狭い道路対策などを図り、持続可能で良好な住環境を目指します。

○ 沿道環境形成地区

- ・国道170号沿道では、景観形成や土地利用の規制誘導について検討するとともに、広域
交通利便性を活かした産業活力の維持・増進に寄与する土地利用について検討を進めま
す。

○ 自然共生地区

- ・山林については、林業の場としてだけでなく、水源涵養や自然景観形成、災害防止など、
市全体の貴重な自然空間として保全を図るとともに、自然を活かした地域活性化の場と
しても活用を図り、地域の資源として適切に保全、活用される山林を目指します。
- ・金剛生駒紀泉国定公園の本市域部分では、森林の適切な維持管理を図り、人々のいこい
やレクリエーション、環境教育などに資する自然環境を目指します。
- ・槇尾川ダム計画跡地では、自然環境を活かした緑とのふれあい空間を目指します。

○ その他

- ・横山高校跡地では、スポーツ拠点の形成を図り、市民が気軽にスポーツや健康づくり等
に取り組むことができる空間を目指します。

地域別まちづくり方針図（南部地域）

